

江南市廃棄物減量等推進協議会 平成 30 年度第 3 回会議（議事要旨）

●日時 平成 31 年 2 月 20 日（水） 午後 2 時～午後 15 時 40 分

●場所 江南市役所 3 階 第 3 委員会室

●出席委員（15 名）

会 長 岩 井 喜 美 子	委 員 岸 信 勝
委 員 滝 充 宏	委 員 望 月 晴 夫
委 員 藤 田 泰 雄	委 員 古 田 一 二 三
委 員 堀 場 敏 之	委 員 政 木 幸 吉
委 員 黒 岩 弘 子	委 員 須 賀 弘 明
委 員 小 林 弘 子	委 員 松 浦 大 介
委 員 阿 部 枝 美 子	委 員 横 山 史 朗
委 員 高 木 則 雄	

●欠席委員（15 名）

副会長 前 田 幸 男	委 員 荻 谷 有 朗
委 員 川 合 龍 司	委 員 暮 石 浩 章
委 員 武 田 と も み	委 員 重 野 英 明
委 員 山 口 幹 夫	委 員 土 井 謙 次
委 員 岩 田 節 明	委 員 水 野 祐 助
委 員 馬 場 智 紀	委 員 西 部 茂 夫
委 員 田 中 義 和	委 員 加 藤 雅 子
委 員 尾 関 雅 宣	

●事務局

環 境 課 長 阿 部 一 郎
環 境 課 主 幹 牛 尾 和 司
環 境 課 副 主 幹 青 山 守
環 境 課 主 事 小 塚 洋 平
環 境 課 書 記 高 田 奈 美

●会議経過

■あいさつ等

■議題1 平成30年度協議会事業報告について

(事務局) 資料1 ページについて説明

■議題2 環境フェスタ江南2018 事業報告について

(事務局) 資料2～5 ページについて説明

(委員) 需要費について、不要額が多かったことは、食糧費が予算よりも少なく済んだという説明だが、どうしてか。なぜ、そんなにも人数が減ったのか。

(事務局) もともとは、昨年度の実績を基に計上していたが、参加人数が減少したことにより、昼食代が減ったと説明した。予算が余ったということは、他のところで使えるということなので、来年度は予算配分の見直しをしたい。

(委員) 参加人数の減少というと、(実行委員や参加団体の) どの部署が減ったのか具体的に知りたい。

(事務局) 手元に資料がないため、また次回までに用意する。

(委員) スタッフが減ったということによいか。今回の協議会の出席者数が少ないのと同じ傾向ではないか。今日の出席者も半分くらいしかいないのではないか。どのようにスタッフの動員をかけるのか。

(事務局) 本日の会については、みなさんの日程の都合等もあるかもしれない。スタッフの動員や集客数について、来年度どうやって理解してもらって参加してもらうのか考える必要がある。

(会長) フェスタの委員にもそれぞれ都合があるのはわかっているが、みんなで協力してやる必要があると思う。集客のことばかり言われるが、委員のやる気がないのに集客がなにもないと思う。来年度はどうやるのか、委員さんたちにわかってもらって出席してもらう必要があるのではないか。

(事務局) 来年度になったら、新たに実行委員会も始まるので、最初に目的を説明し、わかってもらわないとこのままの出席率になると思う。当日の参加者数も少なくなってしまうと思う。環境フェスタの成り立ちから現状をじっくりと説明することから改めてやりたい。

(委員) 今回の需用費の余りなどは、消費生活展とは切り離して考えればよいか。環境フェスタのほうだけで、これだけ参加人数が減ったと考えればよいか。

(事務局) そうということである。内訳は今用意がないが、次回用意する。

(委員) 環境フェスタの集客数について、昨年度が4,000人、今年度が5,000人ときいているが、環境フェスタが誰のためなのか、当然市民のためだと思うので、市民参加ができるように、市民団体として活動している人だけでなく、みんなが参加しやすいようにしたほうが良いと思う。環境のテーマに限らず、小牧市のように産業環境フェスタとしてはどうか。また、市民団体へ15,000円の謝礼としていた

だいているが、なぜいただいているのか。15,000 円の用途について、報告書を作成する必要があるのではないか。

(委員) その他で話す内容ではないか。

(会長) その他の部分でもう一度きく。

(委員) 2 ページの概要の入場者数が約 5,000 人というのは結果ですか。であれば、議題が事業報告なので資料の事業概要と記載のあることについて、事業報告としたほうがわかりやすいのではないか。

(事務局) 減額の理由だが昼食代が主な理由だということで説明したが、実際が 130 食で予算が 180 食で、昼食代では約 2 万円ということで、主な原因としては資料のその下にあるポスター印刷代が約 7 万円の予算が組んであったが、消費生活展と折半で減額したこと、消耗品のほうが減っていることが原因と考えられる。昼食に関する資料は現在持っていないので、わからない。

■議題 3 平成 30 年度江南市レジ袋削減推進委員会収支状況について

(事務局) 資料 6 ページについて説明

(委員) 環境フェスタのクイズラリーの参加者数から考えると、環境フェスタで高齢者教室へ景品を用意することができるように思う。今年度の役員会のときに、集客のために高齢者教室からの参加者に景品をという提案をしたが、予算立てができないという理由からできないと言われた。レジ袋有料化収益金からの寄附を使えばできるように思う。そういった提案だが、どうか。

(事務局) レジ袋有料化収益金の用途については、特別委員会で協議をする必要があり、それにより検討していく。このお金については、クイズラリーの景品で使用しているということだが、来年度の実行委員会の予算を決めるときに検討していきたい。市民の方からのレジ袋が削減されたお金ということなので、慎重に検討していきたい。

(委員) それでは答えになっていない。クイズラリーの景品と高齢者での景品は何が違うのか。この場に特別委員会の委員もいるので、何がいけないのか。

(事務局) 説明がよくなかった。特別委員会は関係がない話である。環境フェスタの予算の話なので、どうやって人数を増やしていくか、実行委員会でもご助言をいただいたところである。

(委員) つまりそれは、観客動員をいかに増やすかという案に対して、反対しているのか。この予算から、ボックスティッシュを記念に渡して、ご高齢者が会場にたくさん訪れるようにするというので、クイズラリーでこれだけのボックスティッシュを出しているのであれば、ご高齢者に渡すのと何が違うのか。

- (事務局) 説明が悪いのかもしれない。支出的には問題がないかもしれないが、また環境フェスタの実行委員会で話し合っていくことである。提案に対し、否定しているわけではない。
- (委員) ここに環境フェスタの実行委員も特別委員会の会長もいるので、会長が事務局と同じような発言をされるのであれば、自分も納得をする。そういう回答をするのはおかしいのではないか。
- (委員) その話はこの場では決めることができないと思う。
- (委員) 会長が、「じゃあ来年度はそうしよう。」といった発言をするのであればよいが、事務局がその発言をするのはおかしいのではないか。何のための特別委員会なのか。立場上、何も変わらないのではないか。
- (会長) おっしゃることは重々承知しているが、来年度に関しては、環境フェスタが始まる前に考えていく。レジ袋のお金については、国の指針もあり、来年度の11月頃になるとの報道もきいているため、どうなっていくかわからない。そういったこともあるため、来年度に預けてもよいか。
- (委員) はい。

■議題4 その他

- (委員) 環境フェスタでの集客が年々減っているように感じる。費用対効果を考えるが、140万のお金で5,000人だと、一人当たり300円程度だが、これも二つのイベントの合同である。前にも話したが、小牧市のように産業フェスタというように、環境に限らずいろんな分野と合同で行うのはどうか。一つの考えとして、知っておいてほしい。謝礼として、15,000円をいただいており、領収書のみ提出だが、少しでも実績報告書を出す必要があるのではないか。15,000円が、決算報告のどこに入るのか、それも気になった。昨年も、予算よりも少ない支出だったかと思う。
- (会長) 小牧の産業環境フェスタについて、意見があったが、事務局から説明をしてもらいたい。
- (事務局) 小牧市の方法だが、環境フェスタや消費生活展、市民まつりのようなものを一切合財やっていたが、江南市と基本の考え方が違うので、参考にはならないのではと考えている。
- (委員) 名称を変えたからといって集客数は増えないと思う。食べ物や、景品といったモノがないと人は来ない。以前やっていたカレーうどんは客足があったと思う。そのため、高齢者にボックスティッシュなどの景品を配ってはどうかという提案をした。
- (委員) 市民団体の参加が増えると、その家族が見に来るため参加者が増えるのではな

いか。モノがあると人が来るという理論もわかるが、窓口が狭いように感じる。

(委員) 来年度ではなく、今この場で決めることはできないのか。来年度会議を開催する頃には、事務局で予算案をたててしまっているためである。もう一つの、小牧市のようにいろんなイベントを合同でやるというのは難しいと思う。

(会長) 予算は、来年度ではなく今日できないかという案だが、事務局はどう考えるか。

(事務局) 会のみなさんが総意をもって、そういう意見であれば、案を乗せて来年度の予算を示したいと思う。今見ている限りではみなさんの総意かどうかわからない。

(委員) 先ほどの需用費が 88,000 円だが、この中から提案にあるように高齢者へのボックスティッシュへもっていくことはできないのか。また、グローバルの話は出尽くしてしまっているので、幼稚園や高齢者のように一本釣りしないと客足は延びない。

(会長) 三役と事務局で話し合っただけで考えるということでしょうか。

(事務局) それだと、現状維持になりがちなので、あまり意味がないように思うが。

(会長) しかし、協議会で話し合うと、人数が多くグローバルになってしまう。また、高齢者に配布ということだが、小学校や他の団体などもたくさんある中で、高齢者だけ一本釣りはいかなものかと思う。なぜ、老人会だけ取り上げるのかという話になってくるので、もう少し考える必要があると思っている。

(委員) 予算額、不要額の話が出たが、不要額を削るのではなく、申し送るということであれば、よいのではないか。何かやるために 15,000 円もらっているのに、人が来ないのは団体自身の責任だと思う。事務局にお願いしたいのは、不要額があったものについて、来年度予算を減額するのではなく、ほかで使う可能性も考えて、予算額を確保することでよいと思う。

(委員) 市民団体の参加が減っている。このままいくと、市民団体はなく、企業のみの出展ということも考えられる。

(委員) 市民団体の減少は、フェスタの動員とは関係がないと考える。市民団体自体は、フェスタと関係なく運営されているものであるからである。企業のみになっても別に構わないと思う。企業も市民生活に必要としているので、税金を使用しても良いと思う。モノがあるところに、人が寄るといった意見は確かにあるとは思いますが、

(委員) 景品の種類が多く、もらうほうも配るほうも大変だった。また、来場者はもらえたら何でもよいようで、品物について、その提供者の想いも伝わっていないように思う。クイズラリーで 5、6 種類も配る必要はないのではないかとと思う。市民団体をつくってまで環境フェスタに参加しようと思っているひとは、

景品がなくてもよいし、想いが伝わっているように思う。環境に関して減量できるとか、意識できる何かがあってもよいのではと思う。

(会 長) 環境フェスタの、景品の話だが、たくさんの団体があるので、もう少し詰める必要があるかと考えている。事務局は、先ほどこの場での委員の意見によって決めるということだったが、それでよいか。

(事務局) 委員からの提案で、そのような話がでたので、そう発言をした。みなさんの意見がそれであれば、それでよいと思う。

(会 長) 浮いたお金で景品に充てるというのはどうか、という提案だったが、どこに差し上げるかというのは、よく考える必要があると思う。挙手でよいか。

(委 員) 具体的な案は、老人会や高齢者教室以外ある人はいない。さきほど、反対意見もあったが、具体案はない。

(会 長) ここでやる話かどうかということもある。

(委 員) 他にやる場がないので、ここでやるべきでないか。

(会 長) そういうことであれば、老人会を対象として、来場者にはティッシュなどの景品をわたすために、予算化し行うという案。もう一つ、反対意見として不特定多数のことも考えていくというのはどうかという案だが、私としては次年度に送りたいと考えている。その2択でどうだろうか。では、老人会を一つのグループを対象として物品の内容は別として、お金をそれに充てるという案に賛成の人、挙手してください。

(委員のうち、賛成の人が挙手。)

(挙手した人数が多かった) もう結果はわかっているが、反対の人も挙手してください。これで、決まってしまうが本当にこれでよいのか。私はあまりこのやり方はよくないように感じるが。事務局はどう考えるか。みんなの意見がききたいと事務局が言うので、このような結果となったが。

(事務局) 委員のみなさんの意見がそれであれば事務局は予算化して、みなさんに示していくことになると思う。

(会 長) 来年度は老人クラブに、その次以降また違う団体にということでよいか。いつも老人会ということではなくて。

(事務局) その議論は、まだこの場ではされていないので、来年度は老人クラブにというところまでに今回はしておきたい。

(会 長) 先ほど、その他で話したいという内容があるという方がいたので、どうぞ。

(委 員) フェスタのみに限った話ではないが、江南市はイベントが多いと思う。また、シャトルバスの利用者数が44人ということで少ないように思う。どのイベントでもシャトルバスを運行していると思うが、環境フェスタに限った話ではなく、市民に認知されていないのではないかと。私も知らなかった。イベントは多いが、シャトルバスの啓発でも客足を増やすことができるのではないかと。課を

またいでの話ではあると思うが。また、ポスターの作り方についても、より魅力的なポスターがあってもよいと思う。わかりやすいが、どこにでもあるような雰囲気があり、もったいないと思う。これも環境フェスタに限った話ではないので、一つの意見として、市のほうで課やイベントをまたいで考えてもらえれば良いと思う。

(会 長) 以前は、すいとびあで環境フェスタをやっていたときは、マイバッグ持参に関する啓発を工夫するなどの画期的な意見がでていたので、事務局と一緒にポスターの色を考えたりしていた。

(委 員) 報償費として15,000円もらっているが、使途などの実績報告書が必要ではないのか。

(事務局) 15,000円の報償費としてというのは、役務に対してのお礼の意味あいのため、補助金とは性質が異なっているので実績報告は必要としていない。今後についても、そのような書類については必要ないものとして考えていく予定である。

(委 員) 謝礼であるので、要らないといっている団体は無理にもらう必要はないと思う。

(会 長) 先ほど企業だけでも環境フェスタはできるという話があったが、企業は企業努力をしており、環境問題なくして会社を運営しているところがほとんどだと思う。環境に対して努力していないような会社は環境フェスタには出ることはできないと思う。景品を配る企業もあるが、景品を配るだけでなく、環境問題への取り組みについても啓発をしている。企業は、イベント終了時間までちゃんとブースを構えているので、委員も時間を見つけて、館内を回ってもらうと、それぞれの企業への取り組みへの理解が深まると思う。

(委 員) 景品がなかったり、毎年同じ展示だったりすると、お客さんが足を止めずに言ってしまうことが多い。食べ物もないので、家族連れが減っているのも、来場者が減っているのは仕方がないと思う。食べ物があったほうがやはりいいのではないかと思う。

(委 員) 環境フェスタではフードドライブの係りだったが、食品を寄付して下さった方は、人間性が違うと思った。その背中を多くの人が見習ってくれるといいと思った。

(会 長) 食品ロスについては、先日も環境課のほうで、フードドライブを行っていた。協議会の委員もそういったところにも足を運んでほしい。